

会報

第25号

平成25年(2013)6月1日

編集・発行

書学書道史学会
会報委員会〒166-8531 東京都杉並区
3-30-22 大学生協学会支援
センター内

TEL (03) 5307-1175

FAX (03) 5307-1196

書学書道史学会の今

平成二十五年四月に、今年度、第一回の常任理事会を開催しました。昨年の四月から大学生協事業センターへ業務の委託を行い、その会計報告や、会員数の現状報告、さらに十一月の九、十日に行われる大会についての検討が、主なる内容でした。生協センターに委託して一年、その報告によると、会員の数も増加し、現在の会員数も、約五五〇名とのこと。さらにうれしいことに、学生の数も毎年二十名ほどの、入会の申し込みがあり、これも、会員のみなさんがこの学会の存在価値を認め、参加するように働きかけをして頂いた結果であろうと思います。本当に、ありがとうございます。

考えてみれば、古谷前理事長からバトンを引き継ぎ、二〇一〇年に、二年間、美術新聞社に業務を委託し、その後、二〇一三年からは、今の生協センターに業務の委託をお願いしたわけです。無論、生協センターをお願いする際には、数社の見積りを取り、

そこで、理事会の承認を得て、現在の生協センターに落ち着いたわけです。委託を、美術新聞社から、生協センターに変更した理由については、種々ありますが、やはり、学会のセンターとなるべき事務局が、書の世界に影響力のある新聞社では、学会の自律性という面においては、ともすれば、不信任に繋がりがかねない、そういう危惧が、みんなのなかにあったことも事実です。将来の学会の存続を考えると、透明性にあふれた、何の疑念も差し挟む余地がない学会にするのが、急務であろうと考えたわけです。こうした経過を経て、業務の移転となった次第です。これで、学会としての、明確な位置付けが、会員のみなさんとはもとより、他学会からも、今後、認識していただけるものと確信しております。後は、会員のみなさんが、今までどおり、質の高い学会を目指して、他学会からも認めて頂けるよう努力して頂きたいと思います。

そもそも学会というものは、どの学会においても一種のヒエラルキーや、硬直化というものを内在しているのも事実ですが、幸いなことに、本学会においては、みなさん一人一人が、会員なんだ、参加しているんだ、という意識が高いせいかな、こうした学会特有の硬直化やヒエラルキーは、感じられません。若い学生たちが入会を希望するのも、案外、この居心地のよさなのかもしれません。それぞれの自分の立場から、書に対する考えを発展させ、啓発しあうことができる学会、これが本学会の、あるべき姿でもあるわけですから、みなさんのますますのご協力をお願いします。

(理事長 大橋 修二)

第9回 会員のための鑑賞セミナー報告

国内局

去る3月17日(日)、京都市左京区の「泉屋博

古館」におい

て、「第9回

会員のため

の鑑賞セミナ

ーが開催さ

れた。当日は

天候に恵ま

れ絶好の鑑

賞会日和と

なったが、会

場が関西圏



鑑賞セミナーの様子

ということ、年度末の多忙な時期とも重なり、参加者はやや少なく13名にとどまった。

同館では、特別展「きれい！ かわいい！ めでた

い！——吉祥のかたち——、常設展「中国青銅器の

時代」の開催中であつたため、参加者はそれぞれ

特別展を参観した後、午後2時に同館大会議室

に集合し、泉屋コレクションの書作品を10点あまり

鑑賞した。

今回の鑑賞セミナーは、泉屋博古館のご厚意

により、ガラス越しではなく直に作品を拝見でき

るよう準備されていた。まず、学芸員の実方葉子

氏より、同館の歴史およびコレクションの概要の説

明を受け、その後、国内局より「作品を鑑賞するにあつて」の諸注意を行った。大学院生をはじめ

の参加者には、よい経験になったと思われる。

八山人「安晚帖」、許友・包世臣の作品や、

「寸松庵色紙」「石山切」など、日中の名品を直に

鑑賞するという機会はそう簡単に得られるもの

ではない。墨色、筆づかい、紙や絹の質感など、ガ

ラス越しではわからない情報を得ようと、参加者

がそれぞれの作品を食い入るように鑑賞してい

たのが印象的であつた。参加者各自が充実した時間

を共有できたのではないかと思われる。

第9回 学生・若手の会員による研究発表会開催のお知らせ

国内局

「主として学生・若手の会員に発表の場を与え、研究の活性化と研究者の育成を図る」という目的で、毎年開催している研究発表会です。

発表の後、座談会形式で参加者相互が書をめぐる意見交換会も恒例となり、盛り上がりを見せます(非会員の来聴可)。

日時…平成25年6月23日(日)

13時～17時(受付12時～)

会場…大阪教育大学・天王寺キャンパス

西館内



大阪教育大学天王寺キャンパス

内容…①研究発表…公募による1名の発表と若手研究者の研究紹介

②座談会形式の意見交換会…「あなた(私)にとつての書の魅力」というテーマで書き手の立場、見る立場、教える立場など、様々な立場から書の魅力を探り、これからの書芸術・書教育を考える意見交換の場としたい。

アクセス…JR「寺田町」駅下車徒歩5分

JR「天王寺」駅・地下鉄「天王寺」駅

・近鉄「阿部野橋」駅下車徒歩約10分



〈研究発表題目と要旨〉

良寛の書法とその評価について

ノートルダム女学院中学高等学校非常勤講師 根来 孝明

良寛の書は、現代において「芸術」として評価されている。このような良寛観は、近代以降に形成されたものである。良寛の書に関しては、個々の書法の分析・成立過程などについては先行研究があるが、それが江戸時代においてどのような価値を持つのか、またそれがどのように受容されてきたのかということについて、述べられたものは少ないと思われる。本発表では、良寛の書に共通する書法の整理を行い、そのような書がどのように受容されていたのか、書に関する評価を取り上げて考察する。

まず、作品から見られる書法の特徴を整理する。楷書・草書・草仮名の作品を分析することを通して、それぞれの書法に共通する要素を抽出し、それが当時、いかに特異なものであったかを確認する。

次にそのような良寛の書がどのように受容されてきたのか、明治以降の記述を取り上げ整理する。明治から大正にかけては、正岡子規や尾崎紅葉・夏目漱石など、いわゆる専門の書家ではない人たちによって、良寛の書は評価されている。それが徐々に「芸術」であると称揚され、書家たちによって評価が行われてくる。このような評価の変遷を、当時の書を取り巻く状況・良寛研究史の状況を含めて、整理を行いたい。

〈若手研究者の研究紹介〉

董其昌書論に着目してきて

広島安田女子大学助教 尾川 明穂

董其昌（一五五五—一六三六）の書論について勉強を進めているが、いつもよくわからないまま原稿を書くという仕儀で、誤りがないか不安にさいなまれている。しかも、周辺の時代や領域に関する知識を持たないため、自身の資料収集や分類、考察の進め方が正しいかどうかすら検証できず、現在に至っている。そのため、この機会に整理してお話させていただき、皆様にご批評を賜りたい。特に、学会誌二〇号所載の小稿で説明が拙かった部分を中心に、書論資料の選別に関わる問題と、時系列に沿った考察の方法について述べたいと思う。

また最近、自身が学生だった時分と比べて、環境の変化から勉強の仕方や考え方が少し変わったように思う。先生や先輩・後輩に囲まれて少しずつ勉強の方法がわかっていったときのことを思い出しつつ、併せてお話しさせていただきたい。



董其昌像

第24回 書学書道史学会大会のご案内

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、11月9日

○理事会

(土)・10日(日)の両日、跡見学園女子大学文京

11月9日(土) 11時00分

跡見学園女子大学

キャンパスにおいて開催いたします。

文京キャンパス2号館

詳細については、大会1ヶ月前にあらためて研

○大会

究発表のレジュメとともにお知らせいたしますが、

【11月9日(土)】

現時点での概要は以下の通りです。

12時30分 受付開始・跡見学園女子大学文京

キャンパス2号館ロビー

演題：『文字統一と秦漢の史書』（仮題）

専門分野：中国語史・漢字学

主な論著：『アジアと漢字文化』（共編著、放送

大学教育振興会、「史書」とは何か―英蔵敦煌漢簡及び秦漢楚地域出土資料を中心として―(『出土文献と秦楚文化』第5号)など多数。

15時10分～17時10分 研究発表
17時30分～ 懇親会

【11月10日(日)】

8時40分～ 受付開始
9時00分～ 研究発表
12時00分～13時30分 記念撮影・昼食・特別展示参観

13時30分～ 研究発表
16時00分～16時10分 閉会式

○展示

「日中新発見の拓本・肉筆展」
11月9日(土)・10日(日)

の両日、本学内にて特別展示。1970年以降に発見された中国の刻石拓や近年発見された日



跡見女子大学茗荷谷校舎

本の手鑑などを展示。現地の写真や簡単な解説も付す。

○会場へのアクセス

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩2分。
○宿泊用のホテル

役員・会員ともに各自でご手配ください。

お問い合わせ

跡見学園女子大学文学部 横田恭三

☎ 048-478-3413 (文学部研究室)

メールアドレス yokota@atomi.ac.jp

第24回 大会研究発表募集要項

国内局

今秋の「第24回書学書道史学会大会」は、跡見学園女子大学文京キャンパス(東京)において前掲のとおり開催されます。研究発表会場は今年も従来通り一室制とし、原則として分科会方式はとりません。多くの会員各位の積極的な発表を期待します。奮ってお申し込み下さい。

記

①発表日時：平成25年11月9日(土)、10日(日) 両日

②発表時間：各30分(発表20分・質疑応答10分)

③申込方法：件名を「大会発表申込」として「所属・氏名・連絡先」を明記の上、電子メールにて発表内容の題目とレジュメ800字程度の要旨を添付して下さい。なお、電子メールの使用

が困難な場合、以下の大会運営委員会迄お問い合わせ下さい。

④レジュメ：原則としてワープロ(テキスト形式・ワード形式・一太郎形式など可)で作成し、電子メールに添付してご送信下さい。

⑤発表申込締切：平成年7月25日(木)―必着

⑥発表者の決定と連絡：大会での発表者は大会運営委員会が8月中旬に決定し個別にご連絡します。

⑦「大会のしおり(レジュメ集合む)」の配布：10月初旬に全会員宛に配布します。

※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第24号(平成26年度秋刊)への論文投稿申込があつたものとして扱われます。改めて

学会誌への投稿申込をする必要はありません。※発表者の学会誌論文原稿の締切は、平成26年3月末日です。ただし、原稿の採否は査読委員会決定されます。

なお、学会誌掲載についての不明な点は、大学生協学会支援センター内(編集局)迄お問い合わせ下さい。

申込み先

〒352-8501

埼玉県新座市中野1-9-6

跡見学園女子大学文学部 横田恭三宛

☎ 048-478-3413 (文学部研究室)

メールアドレス yokota@atomi.ac.jp

学会誌 22号 J-STAGE 登載のお知らせ

学術局

昨秋刊行されました学会誌『書学書道史研究』22号が、5月末に独立行政法人「科学技術振興機構」(J-STAGE ジェイ・ステージ)に登載されました。



講演会のお知らせ

国際局の関連行事として、大東文化大学にて開催される講演会のお知らせを致します。書学書道史学会員であれば、どなたでも聴講できます。奮ってご参加下さい。

日時…平成25年7月13日(土) 12時30分～14時30分(通訳を含む)

場所…大東文化大学 板橋校舎 一号館三〇一 番教室

演者… 申氏 (元米国フリーア美術館中国芸術部主任)

演題… 日本残巻本より(故宮本自叙帖)が北宋影写本であることの確認
趣旨… 本年度第14回大会では、「大東文化大学創立九十周年記念」行事の一つとして、「書道」の新たな飛躍と海外ネットワークとの形成

をめざすため、米国・中国・台湾で著名な美術史家・書画鑑定家の傅申教授 (SHEN C. Y. FU) をお招きして講演会を実施する運びとなりました。つきましては、書学書道史学会の会員の皆様にも聴講して頂きたいとご案内申しあげます。

主催… 大東文化大学書道学会

これまで、当機構への登載は、刊行から一年後となる旨をお知らせしてきましたが、学術局幹事諸氏の尽力により、予定より早く公開することができましたので、ご報告いたします。

なお、学会ホームページでもお知らせしていますので、活用ください。当サイトは <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/shogakushodoshis-char/ja> のアドレスですが、「J-STAGE」、もしくは「ジェイステージ」のキーワード入力でも検索できます。

国際局

アクセス

● 東武東上線「東武練馬駅」北口下車・無料スクールバスで約7分(スクールバス乗場まで徒歩5分)

● 都営三田線「西台」駅西口下車徒歩10分

● 東武東上線(有楽町線・副都心線乗り入れ)「成増」駅北口下車

● 路線バス(国際興業)「赤羽」駅西口行または志村三丁目駅行「大東文化大学」バス停下車
*事前申し込み不要。

ただし、資料代千円要。

本会会員の採択課題に限ったが、
会員が分担研究者で、代表者が非会
員である場合には、※を付して代表
者を末尾に付記した。複数の会員が
関わる同課題については、当該課題
のもとに代表者と分担研究者とを併
記した。なお、所属の後の数字は、
平成24年度のみ補助金の配分額。
計画額には※を付した。

時代をめぐる仏教社会基層構造の解明と
仏教石刻資料データベースの構築 気賀
沢保規 明治大学 5,300 千円

基盤研究(B)継続(平成23)学習基盤
の形成を促進する書字力育成プログラ
ムの開発 鈴木慶子(長崎大学) 2,210 千
円

基盤研究(B)新規 日中比較による書字
資料の文献学的研究 菅野智明(筑波大
学) 4,550 千円

基盤研究(B)新規 中国道教の地理的
イメージと宗教的ネットワークに関する
総合的調査と研究 土屋昌明(専修大
学) 5,200 千円

基盤研究(C)継続(平成21)日本の篆
刻に関する基礎的研究 神野雄二(熊本
大学) 780 千円

基盤研究(C)継続(平成22)中国書画
の表装に関する基礎的研究 富田淳(東
京国立博物館) 1,300 千円

基盤研究(C)継続(平成22)周曰校刊
『三国志通俗演義』についての研究 中川
論(大東文化大学) 650 千円

基盤研究(C)継続(平成22)中国南北
朝時代の墓誌銘と造像記の接点―妻子・
門弟の文末記録から閨閥を追う― 東
賢司(愛媛大学) 650 千円

基盤研究(C)継続(平成22)中学校国

語科書写における書字過程に着目した行
書教材及び授業開発 樋口咲子(千葉大
学) 390 千円

基盤研究(C)継続(平成23)日本中世
期における易学の受容と発展に関する研
究 近藤浩之(北海道大学) 1,560 千円*

基盤研究(C)継続(平成23)中国北朝
墓誌における特定刻法の伝播に関する基
礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学)
650 千円*

基盤研究(C)継続(平成23)中世書論
に基づく日本書道史の再構築 永由徳夫
(群馬大学) 1,040 千円*

基盤研究(C)継続(平成23)本阿弥光
悦筆和歌巻の特徴解明と伝光悦筆和歌
巻の真贋鑑定法の確立 森岡隆(筑波大
学) 650 千円*

基盤研究(C)新規 中国西周時代昭王
期の金文研究 古木誠彦(九州女子大
学) 2,210 千円

基盤研究(C)新規 書字学習における幼
小連携を円滑にする教材の開発 齋木
久美(茨城大学) 2,340 千円

基盤研究(C)新規 戦国秦漢簡牘文字
の多様性と変遷に関する実証的研究
福田哲之(島根大学) 750 千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成22)中国
碑帖拓本の文献学的研究―図書館と美

術館をつなぐ― 代表:菅野智明(筑波
大学)分担:増田知之(京都大学) 910 千
円

若手研究(B)継続(平成22)中国清代
における法帖刊行の歴史学的研究 増田
知之(京都大学) 1,040 千円

若手研究(B)継続(平成22)楚簡による
戦国文字資料の再検討―伝抄古文と
「古璽」を中心に― 山元宣宏(宮崎大
学) 1,040 千円

若手研究(B)継続(平成23)未調査仮
名自筆資料の分析による文字・表記意識
の通時的研究 家人博徳(国学院大学)
1,040 千円*

若手研究(B)継続(平成23)近世禁裏
文化圏内における入木道伝授の形成と伝
授内容の推移に関する研究 中村健太
郎(国文学研究資料館) 650 千円*

※奨励研究 新規「影写」における筆
跡についての発展的研究 和田幸大(東
京大学) 400 千円

特別研究員奨励費 継続(平成23)近
衛家熙を中心とする近世入木道「書道」
及び和歌文学の研究 緑川明憲(慶應義
塾大学) 600 千円

基盤研究(A)継続(平成22)東アジアの
書道史における料紙と書風に関する総合
的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館)
富田淳(東京国立博物館)※代表:島谷
弘幸(東京国立博物館) 7,020 千円

基盤研究(A)継続(平成22)石刻史料
と史料批判による魏晋南北朝史の基本問
題の再検討 福原啓郎(京都外国語大
学)※代表:伊藤敏雄(大阪教育大学)
6,880 千円

基盤研究(B)継続(平成20)アメリカ収
蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のため
の調査研究 代表:河内利治(大東文化
大学)分担:安達直哉(大東文化大学)
3,640 千円

基盤研究(B)継続(平成21)礼拝空間
における儒教美術の総合的研究 菅野智
明(筑波大学)※代表:守屋正彦(筑波大
学) 2,470 千円

基盤研究(B)継続(平成22)六朝隋唐

学生会員の「会員登録」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・自主退学、その他の理由により学籍を失った時（学割証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員登録手続き（会員登録申込書）の提出が必要です。

とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員登録申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員登録手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。



なお、「会員登録手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、左の事務局へお願いいたします。

事務局の連絡先

〒166-8532

東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内

書学書道史学会事務局

☎ 03-5307-1175

FAX 03-5307-1196

メールアドレス shogaku@univcoop.or.jp

※電話での応答は「大学生協学会支援センターです」となります。

担当 井手富士雄

年会費納入について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。**年会費納入は、6月末日まで**にご納入ください。

なお、平成25年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。

また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。

ただし、退会（除籍）適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会の費請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

次回理事会のお知らせ

過日（平成25年4月21日）開催の常任理事会において、第55回（臨時）理事会を8月2日（金）16時より開催することが決定しております。役員各位におかれましては、何とぞご出席くださいますよう、予めご予定いただきましたようお願い申し上げます。

なお、開催場所については、「東京」駅直近地を予定しておりますが、決定次第、改めてご案内を申し上げます。

新入会員

※平成24年11月～25年4月に申請された方

〈一般会員〉

大西 克也 東京大学大学院教授

張 永強 中国書法雑誌社編集部副主任

〈学生会員〉

賈 川 大東文化大学大学院生

加藤 詩乃 青山学院大学大学院生

ガルシア フアン 大東文化大学大学院生

澤岡 雪子 大東文化大学大学院生

陳 俊光 大東文化大学大学院生

西方 由貴 大東文化大学大学院生

松岡美佐希 大東文化大学大学院生

山田 千穂 筑波大学大学院生

楊 懿乾 大東文化大学大学院生

第181回シマ研究会に参加して

幸喜 洋人

過日、沖縄国際大学、南島文化研究所主催の「近世琉球における書跡の用印について」という講演のコメントーターとして参加した。

琉球王朝時代の王族、貴族、士族層の書画に絞った、落款印の印文の内容及び用法についての概要であるが、日本、中国との大きな違いとして、琉球、首里系の貴士族は唐名と和名の印を併用する例が多く見られるというものであった。又、王の勅命によって授かった一字を堂号に付すなどの特殊な例も紹介された。

今回の発表ではとくに触れられなかったが、私の調査したところ、先の戦禍で原印そのものが多く消失し、残された印も無款の印ばかりで刻者の記された印に未だ出会っていない。いつ、どこで、誰が刻ったかがわかれば当時の琉球をもっと知ることができるのであるが……

高校生と学ぶ日々 小宮山 碧

「本物の拓本には皺があるんだ!」
二月某日、台東区立書道博物館のガラスケースの前で生徒が発した一言である。教科書と見比べて、写真では分からない色味や質感に感激、目を輝かせていた。現在の勤務校は、穏

やかな自然に囲まれた長野県望月高等学校。東京まで出かけるのも、高校生にとつては一大イベントだ。後日提出された書道ノートには、「……アクリタイプな書道部もいいものだと思います」の一文が。多感な彼らは、常に私に学ぶ喜びと新鮮な視点を教えてくれる。これからも、彼らと一緒に本物に触れる時間を大切にしていきたい。

ちなみに望月は比田井天来ゆかりの地であり、本校の職員玄関にも天来揮毫「質実」「剛健」の扁額が掲げられている。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

大学で書道を学ぶということ

福井 淳哉

私の勤務する帝京大学文学部日本文化学科における書道分野は、多彩な視点から日本文化の特質とその奥底にあるものに迫るためのカテゴリーの一つとして位置付けられています。学生は日本文化に関する様々な科目を総合的・立体的に学ぶことにより、自分の専攻とする分野を深く掘り下げるとともに、日本文化を幅広く理解し各々の専門研究を厚みのあるものにしていくことを目指すものです。

それによつて立体的に浮かびあがる日本文化の特質は、これからの日本のあり方を考える上で大切な糧となることでしょう。大学で書道を学んだからといって、その全員が書の専門家になるわけではありません。本学では、前記のような事情もあり、書道にほとんど触れたことのない生徒も数多く受講しています。大学で書道を学ぶということの意味、技術や理論を学ぶといったこと以外の意味を学生たちと一緒に模索しながら、日々真摯に学び続けていきたいと思っています。

額字の賞

緑川 明憲

ひところ額字についていろいろ調べることがあったが、それ以来、神社仏閣へ詣でると真つ先に上を見る習慣がいつの間にかついてしまった。神社は明治に社名を改めた所が多いせいか古い額を見ることはあまりないが、仏閣では、例えば『集古十種』などで見た記憶と一致するものも時折ある。

中には奇ッ怪極まりない文字で書かれた額字があり、調べ初めの頃はそれを何となく薄気味悪く感じたものだった。だが、掛けられた額を目の当たりにすると、遠目からの迫力は言うに及ばず、目慣れぬ文字によつて神秘的な印象を与え、神仏の靈験を謳うには、ああした文字でなければならなかった、と思う程その効果は靦面であった。

古人が抱いたであろう「文字」への信仰も垣間見せてくれる額字。上を

見る習慣は、当分改まりそうもない。

編集後記

◆先達の書かれた短冊に興味を持って、種々収集している。篆刻はよく方寸の世界といわれるが、短冊はタテ約三六〇×ヨコ約六〇mm(大小あり)の空間に、一般的には、伝統的な和歌や俳句を配する。中には、紙面を埋め尽くさんばかりの和歌短冊、長歌を自由に散らし書きにした短冊、紺紙に金泥細字で般若心経を書いた短冊等があり、このような個性的な短冊は座右に置き、見ぬ世の友としてこよなう慰むわざとしている。(高城)

◆かつて中村不折が建て、現在の書道博物館の地に転居するまでのコレクションを収めていた石蔵が、一年半ほど前に発見されました。解体中であった根岸のとある住宅に内蔵されていることが判明し、その後、書道博物館への移築プロジェクトが進められてきました。企画展「江戸ワールド(H25・6・28~9・25)でのお披露目に向けて、館の中庭では建設作業の真つ最中です。(六人部)

◆仕事・研究・書作、様々なことを同時に進めることが難しく、己の未熟さを痛感する日々です。ご多忙の中、業績を積み上げている先達を目標に、自身の生活を省みて少しずつ改善していきたいと思っています。(金子)